

「立山黒部」世界ブランド化推進会議 第5回会議資料

2019年4月16日

富 山 県

観光・交通振興局

生活環境文化部



「立山黒部」世界ブランド化 会議・WGの開催状況

2017年度

○6月 1日

第1回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議（東京開催）
 ・各プロジェクトの推進体制（責任者・関係者）とスケジュールイメージを共有

＜この間ワーキンググループを3回開催＞

○10月20日

第2回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議（富山開催：併せて現地視察も実施）
 ・各プロジェクトの進捗報告と「立山黒部」のブランドコンセプト等について議論

＜この間ワーキンググループを1回開催＞

○3月26日

第3回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議（東京開催）
 ・「立山黒部」のブランドコンセプト及び各プロジェクトの進捗状況について議論



現地視察（黒部）



現地視察（立山）

2018年度

○12月2日

第4回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議（富山開催）
 ・各プロジェクトの進捗状況について議論

＜この間ワーキンググループを1回開催＞



第4回推進会議

2019年度

○4月16日＜本日＞

第5回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議（富山開催）
 ・各プロジェクトの進捗状況を踏まえ委員から意見をいただく

「立山黒部」世界ブランド化 プロジェクト

※赤文字:本日の説明プロジェクト 13プロジェクト

上質な滞在環境の整備

- 01 混雑スポットにおける食事・休憩スペースの拡充
- 02 アルペンルートの営業時間拡大
- 03 乗車整理券の配布
- 04 高原バス等のWEB予約システム
- 05 既存宿泊施設の高付加価値化、ハイグレード宿泊施設の整備
- 06 滞在プログラムの充実

新しい魅力の発掘・磨き上げ

- 07 アルペンルートの早期開業
- 08 アルペンルートの冬季営業
- 09 黒部峡谷鉄道の冬季営業
- 10 ヘリスキーの企画・実施
- 11 黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化
- 12 カルデラ体験学習会の周知強化等

顧客層にあわせた受入環境の整備

- 13 新しいマーケット(欧米豪)での認知度向上
- 14 多言語表記・案内の充実
- 15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消
- 16 ユニバーサルサービスの推進

周遊性の確保

- 17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ
- 18 立山カルデラロープウェイ
- 19 黒部峡谷ロープウェイ
- 20 宇奈月温泉街の賑わい創出

自然環境の適正利用

- 21 登山道の整備
- 22 環境意識の啓発

自然環境の保全

- 23 山岳トイレの整備
- 24 外来植物除去活動の推進
- 25 利用調整地区の導入の検討
- 26 環境保全経費の受益者負担の在り方の検討

ライチョウの保全

- 27 とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査

利用者の安全確保

- 28-1 雪崩事故対策
- 28-2 火山対策

02 アルペンルートの営業時間拡大

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 安全確保や環境保全に配慮しつつ、営業時間の拡大範囲や拡大方法を検討
- 早朝や夕方、夜の魅力を活かした滞在プログラムを検討



弥陀ヶ原ホテル 洋食堂から見える夕景



混雑する立山駅

◎ 検討・取組状況

- 日の出時刻の早い繁忙日に、**現在の交通規制の範囲内で、営業時間の試験的前倒し**を実施(2018年度～)
- 2018年度の立山ケーブルカーの早朝運行については、天候を勘案し3日前に判断したにもかかわらず、当日雨天のため来山客が少なく、効果を確認することができなかった。

2018年度実施結果

○立山ケーブルカー営業時間の前倒し

8月10日 立山駅 7時発 → **6時40分発**

8月11日 立山駅 6時発 → **5時40分発**

イーソラ
○E-SORA「立山パノラマバス」の運行による営業
時間の前倒し

8月7日～10日 **4日間**

立山駅 7時発 → **6時30分発**
(ケーブルカー始発便)



8月11日午前5時30分頃 立山駅の様子

◎ 今後の取組予定・検討事項

- 早朝の営業時間拡大を継続し検討
- 2019年度は立山ケーブルカーの早朝運行を複数日実施し、効果検証を行う。

2019年度実施予定

○立山ケーブルカー営業時間の前倒し

運行日決定後、WEB上で告知

・ゴールデンウィーク期間(実施検討中) ・梅雨明け後～お盆期間

4月30日 } 立山駅
5月 1日 } 7時発 → **6時40分発**
5月 2日 }

天候と多客日予測の上、実施日を決定



E-SORAバス

イーソラ
○E-SORA「立山パノラマバス」の運行
による営業時間の前倒し → **8月実施予定**

座席上部がガラス張り、アルペンルートの雄大な大自然を車内から楽しめるバス

06 滞在プログラムの充実

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 立山黒部貫光(株)を中心に、WGを開催
- 滞在プログラムの充実のため、ガイドが活動・参入しやすいプラットフォームを整備



◎ 検討・取組状況

「立山エコツーリズム研究会」による専門ガイドツアーの充実

2018年度実績

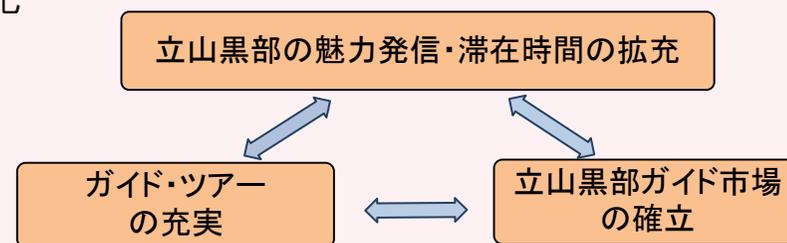
- ガイド10名とツアー25件(日・英合わせて)TATECOサイトに登録
- 4月～11月のシーズン期間中、以下の集客を達成
日本語ツアー：4ガイド、12組、28名
英語ツアー：5ガイド、10組、23名
※モニターツアー含む
- トリップアドバイザー 口コミ 7件 評価 4.5

キヤノニング



TATECOサイト

- 個々のツアー販売をTATECOサイトに集約することで、ガイドを組織化することができた
- 立山黒部の魅力発信と滞在時間の増加を目的として、**登録ガイド数・ツアー数の増加を図る必要がある**
- 立山黒部で**ガイドが活躍できる市場を確立**し、立山エコツーリズム研究会の**自走システムの構築**



◎ 今後の取組予定・検討事項

- ガイドの人材発掘・育成の継続や長野県との連携
- TATECOガイドの特典としてアルペンルート年間パス制度の導入
- プロモーションの強化や荒天時のプログラム開発

06 滞在プログラムの充実



2018.7.3 立山信仰ツアー



2018.7.22 雄山登山ツアー

【モニターツアー・実販売ツアー】

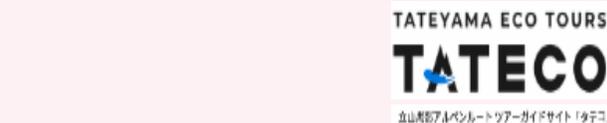
- トリップアドバイザーに投稿された口コミ
 - ・立山がなぜ富山県民の誇りなのかわかった
 - ・危険個所のアドバイスもあり、安全に配慮されている
 - ・ガイドが優しくトークも面白くあっという間のツアーだった
 - ・珍しい雪ルートにいけ、雷鳥を見ることができ、とてもいい体験でした。 など



2018.11.21 アルペンルートガイドツアー



冬季ガイド養成講座



【ガイド・通訳案内士研修】



ガイド向け現地研修会



通訳案内士向け研修

立山

黒部

短期

中期

WG

11 黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化

◎ 推進体制・取り組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 富山県と関西電力㈱を中心に、WGを開催しながら協議を進める。
- 旅行商品化、見学者枠の拡大等について具体的な課題整理・解決策の検討を行う。



◎ 検討・取組状況

● 関西電力㈱と富山県との間で、「黒部ルートの一般開放・旅行商品化に関する協定」を締結（2018.10.17）

○ 安全対策工事（第2条）

黒部ルートの一般開放・旅行商品化に向けて、黒部ルートに係る施設、設備等に関する調査を行ったうえで、所要の安全対策工事を実施（第1項抜粋）

前項の安全対策工事は、概ね5年を目途として実施（第2項抜粋）

○ 公募見学会（第4条第1項）

第2条に定める安全対策工事が完了するまでの間、公募見学会の土曜日、日曜日および国民の祝日に関する法律に規定する休日の実施については、2019年度は、7月から9月までの土日祝日のうち4日間において公募見学会を実施するものとし、…（以下、略）



● 2019年度の公募見学会日程

○ 見学会の日数等 平日 34日間、土日祝日 4日間 計38日間（見学者数 2,280人（1日当たり60人））

○ 土日祝日の日程 7月6日（土）、8月11日（日・祝）、8月25日（日）、9月8日（日）

○ 公募状況 2月12日（火） ホームページによる案内開始
3月 1日（金） 応募受付開始（第1回～第9回）
4月 1日（月） 同上（第10回～第19回）
26日（金） 同上（第20回～第25回）

8月は夏休み期間に家族連れで参加しやすいよう、2日間実施

2018年 2,040人

2018年度の改善内容

- ・募集開始から参加者決定までの期間（当落不確定期間）
2017年 最大約3か月半 → 2018年 最大約2か月半 約1か月短縮
- ・参加者決定から見学日までの期間（準備期間）
2017年 平均約40日間 → 2018年 平均約60日間 約20日間拡大

◎ 今後の取組予定・検討事項

● 一般開放・旅行商品化の開始に向けた準備

一般開放・旅行商品化の開始に向けた販売戦略（マーケティング、宣伝プロモーション、運行スタイルの高付加価値化）を、有識者等のアドバイスを踏まえて構築。

● 黒部ルートや宇奈月温泉街の魅力向上等の検討

2024年の一般開放・旅行商品化の開始に向け、黒部ルートの満足度の向上や、宇奈月温泉街や黒部峡谷鉄道沿線の魅力創出・磨き上げを検討。（県、黒部市）

立山

短期

WG

12 カルデラ体験学習会の周知強化等

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第4回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 富山県を中心に、WGを開催
- カルデラ体験学習会の周知強化を実施

◎ 検討・取組状況

- 2018年度は、現行のカルデラ体験学習会のバスコースの一部日程(9月、10月)について旅行会社のパンフレットやオンライン予約サイトへ掲載し、広く周知を実施(2018年度初実施、参加者数 147人)。
- 2019年度は、ツアー販売を行う旅行会社を3社→4社、ツアー実施回数を9回→14回に増やし実施。

	2018年度	2019年度
ツアー販売	①JTB ②クラブツーリズム ③VISIT富山県	①JTB ②クラブツーリズム ③VISIT富山県 ④びゅうトラベルサービス (JR東日本グループ)

+1社



晴天コース(六九谷展望台)



雨天コース(悪城の壁)



2019年JTB首都圏販売旅行商品として掲載

【2019年度販売計画】

ツアー販売	ツアー名	ルート	回数	参加人数	実施日	販売時期
JTB	長野・富山周遊ツアー(2泊3日)	1日目:東京駅—長野県内—大町温泉(泊) 2日目:立山黒部アルペンルート—立山極楽坂(泊) 3日目:立山カルデラ砂防体験ツアー—富山駅—東京駅	2回 (1回)	(最少催行人員) 20人～	10月2日、9日	販売中
クラブツーリズム	未定	東京発着 富山市内 2泊3日予定	3回 (2回)	未定	9月:3回実施	6月頃
VISIT富山県	立山カルデラ砂防体験ツアー	着地型旅行商品(現地集合・現地解散)	7回 (6回)	(最少催行人員) 1人～	9月6日、13日、20日、27日 10月4日、11日、18日	販売中
新びゅうトラベルサービス	未定	東京発着 富山市内 1泊2日予定	2回	未定	9月:1回実施、10月:1回実施	7月頃

()回数はH30実績

◎ 今後の取組予定・検討事項

- 引き続きカルデラ体験学習会の周知強化に努める

13 新しいマーケット(欧米豪等)での認知度向上

◎ 推進体制・取り組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 事業者と行政が連携し、欧米豪のマーケットに対して、積極的・効果的なプロモーションを展開。

◎ 検討・取組状況

「日本」を検索している米、英、豪、仏のトリップアドバイザー閲覧者にバナー広告を配信(7月～12月(6か月間))し、同特設ページへ誘導

- 「トリップアドバイザー」内に、富山県特設ページ(英語版・仏語版)を作成し、本県の魅力を発信



- 特設ページ閲覧者数：15,999人 ※標準値の約1.8倍→ターゲットに的確に配信された
- 特設ページ滞在時間：2分7秒 ※標準値の約2.8倍→ターゲットの興味を引く内容が掲載

- ・ 観光事業者の誘客力向上のため、トリップアドバイザーから講師を招き、登録方法や活用術等に関するセミナーを開催(9月12日、約50名参加)。⇒ トリップアドバイザーへの新規登録件数40件【148(2017年)→188(2018年)】

欧米豪からの本県宿泊者数

- 県内外国人宿泊者数(県独自の全数調査) 10,137人(2014年) → 22,225人(2017年) 約219%

区分	アメリカ	カナダ	イギリス	フランス	ドイツ	オーストラリア	その他	欧米豪計
2014年	3,134	508	913	845	371	622	3,744	10,137
2017年	8,518	1,044	1,701	1,256	1,632	2,410	5,664	22,225
伸び率	271.8%	205.5%	186.3%	148.6%	439.9%	387.5%	151.3%	219.2%



◎ 今後の取組予定・検討事項

- 「立山黒部」世界ブランド化コンセプトの発信
第4回会議で決定したブランドコンセプトからイメージされるロゴマークや特設ページの作成により、国内外へ情報発信
- トリップアドバイザーを活用した誘客の促進
世界最大の旅行サイト「トリップアドバイザー」を活用した本県の魅力発信を促進



Zermatt. No matter what.

15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 富山県を中心にWGを開催。まずは整備範囲を検討したうえで、通信インフラの確保も含めた課題を洗い出し、実現に向けた調査・研究を進める。

◎ 検討・取組状況

① 携帯電話不通エリアの解消

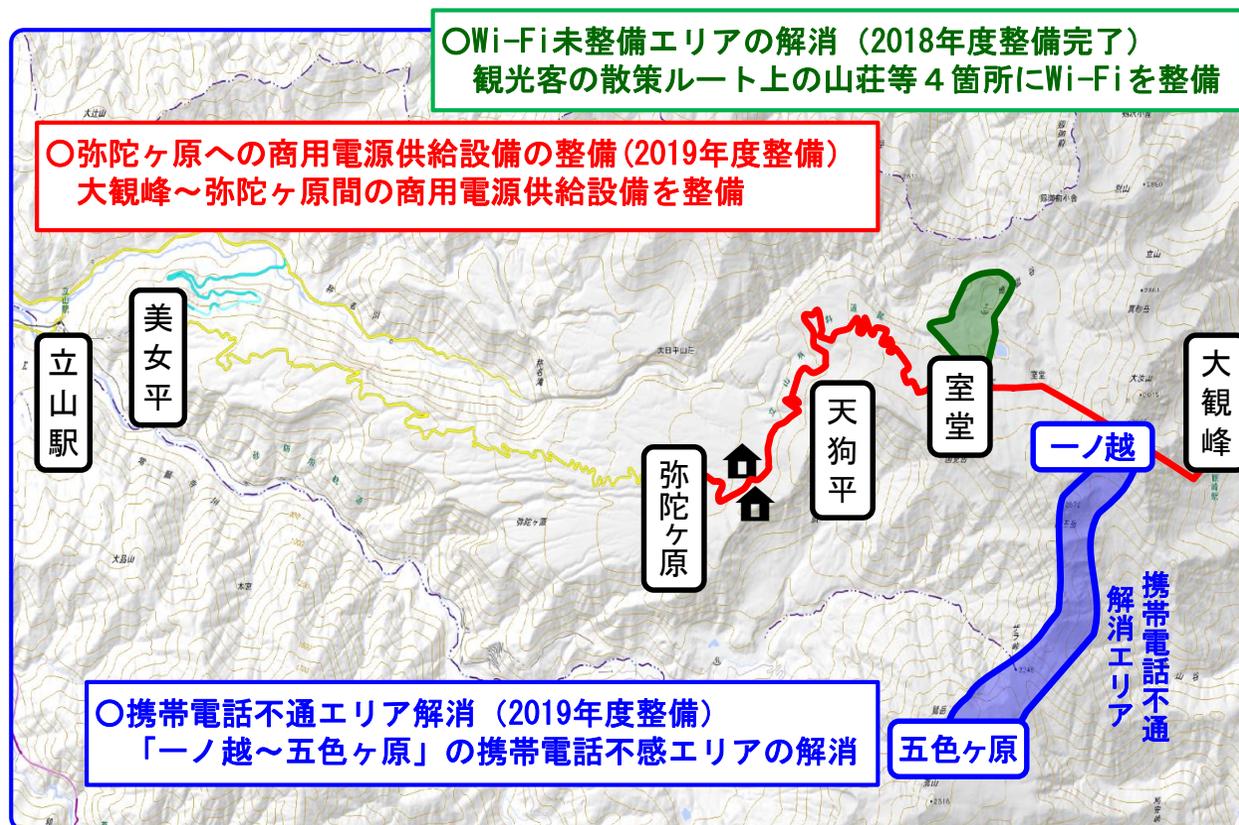
- ・「一ノ越～五色ヶ原」間の携帯電話不感エリア解消のため、携帯基地局を整備（事業主体：立山町）
※総務省の補助事業（携帯電話等エリア整備事業）を活用
- ・携帯基地局用の電源ケーブルを敷設

② 弥陀ヶ原への商用電源供給設備の整備

- ・弥陀ヶ原地区への商用電源供給に向け、費用、ルート、工期等の調査・検討を実施

③ Wi-Fi未整備エリアの解消

- ・観光客の散策ルート上にある山荘のオープンテラスや、最盛期600人以上が利用する地獄谷近傍のキャンプ場などに、Wi-Fiアクセスポイントを整備
※総務省の補助事業（公衆無線LAN環境整備支援事業）を活用
- ・2019年度本格供用開始



◎ 今後の取組予定・検討事項

- 大観峰～弥陀ヶ原間（約12km）の電源供給設備を整備。
- 観光客や登山客の安全確保や利便性向上の観点から、美女平～弥陀ヶ原間の通信インフラの整備について検討を進める。

16 ユニバーサルサービスの推進

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 事業者と行政が連携し、ユニバーサルサービスの推進に取り組む。

◎ 検討・取組状況

- これまで取り組んできた、駅舎等のバリアフリー情報(エレベーター、多目的トイレ等の設置状況)をWeb等により発信



落差日本一(350m)の称名滝

◎ 今後の取組予定・検討事項

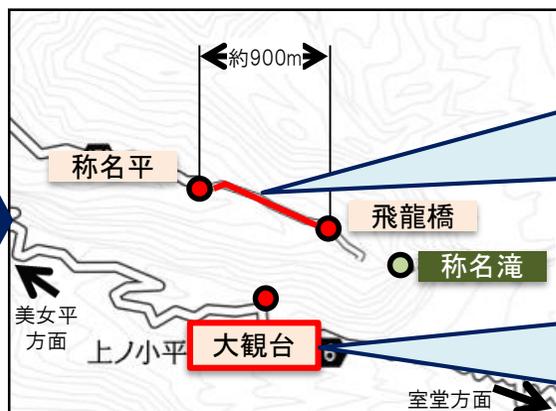
- 脚力に不安のある高齢の方なども日本一の落差を誇る称名滝を観光できるよう、調査・検討を行う

現状

・称名滝を近くから見るためには、勾配のある坂道を約30分歩く必要があるため、多くの旅行者が気軽に観光できるよう、アクセスの改善が必要



車椅子を押しながら歩く旅行者



(出所)Yahoo! JAPANをもとに作成

滝を直下から眺める

○称名滝アクセス向上調査

・称名平～飛龍橋間(約900m)における、高齢者等に配慮したバリアフリー車両の運行に向けた調査検討を実施

滝を高所から眺める

○大観台再整備調査

・大観台をバリアフリーの観点にも立った展望台としての再整備に向けた調査検討を実施



バリアフリー車両(イメージ)



称名滝をご覧になる昭和天皇と香淳皇后(1969年5月28日)

17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第3回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料をもとに作成

- 立山ケーブルカーの現状も踏まえ、まずは立山～弥陀ヶ原区間について、ロープウェイ整備に加え、既存道路の活用も含め、新たなアクセスルートを検討。

◎ 検討・取組状況

- 新たなアクセスルートとして、称名平から弥陀ヶ原をロープウェイ等で結ぶルート(想定ルート①)と、立山駅から美女平をロープウェイで結ぶルート(想定ルート②)の2案について、整備内容や環境・景観への影響を調査・検討。



ルート	想定ルート①「称名滝駅～大観台駅間」	想定ルート②「立山駅～美女平駅間」 <small>(立山黒部貫光(株)資料より)</small>
延長	約1.2km	約1.2km
支柱数	1基	3基
搬器	2台	2台
輸送量(片道)	約1,400人/時	約1,400人/時
整備費用(ロープウェイ)	約55億円 (※最新型回転式 約65億円)	約45億円 (※最新型回転式 約55億円)
〃 (駅舎)	約35億円	約12億円
新たなニーズ (アンケート調査)	◎アルペンルートに来訪歴がある者を対象にWebアンケート調査を実施(約1,000人) ○ルート整備後再訪したいと回答した者 ・1年以内に再訪したいと回答 22.2% ・1～3年以内に再訪したいと回答 57.7%	◎現行ケーブルカーの隣接ルートのため、アンケート調査を実施していない (H30立山黒部アルペンルート入込客数 98万1千人)
運営主体・事業計画策定	中期的に検討	立山黒部貫光(株)

17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ②

景観影響(想定ルート①「称名滝駅～大観台駅」、想定ルート②「立山駅～美女平駅」)

想定ルート①「称名滝駅～大観台駅」



想定ルート②「立山駅～美女平駅」



17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ③

環境影響(想定ルート①「称名滝駅～大観台駅」、想定ルート②「立山駅～美女平駅」)

ルート	想定ルート①「称名滝駅～大観台駅間」	想定ルート②「立山駅～美女平駅間」
地形・植生		
影響 (駅舎)	<p>称名滝駅 既存の「称名平休憩所・駐車場」を活用するため、新たな植生(ミズナラ等)の改変は少ない</p> <p>大観台駅 樹林環境(タテヤマスギ等)の一部が改変され(約0.6ha)、生息の可能性がある希少な動植物(コウモリ類等)への影響が想定</p>	<p>立山駅 既存の駅施設等を活用するため、新たな植生(ミズナラ等)の改変は少ない</p> <p>美女平駅 既存の駅施設等を活用するため、新たな植生(ブナ等)の改変は少ない</p>
影響 (ルート上)	<p>ルート区間 樹林環境(タテヤマスギ等)の一部が改変され、生息の可能性がある希少な動植物(イヌワシ・クマタカ等)への影響が想定</p>	<p>ルート区間 樹林環境(ミズナラ等)の一部が改変され、生息の可能性がある希少な動植物(イヌワシ・クマタカ等)への影響が想定</p>

今回の基礎調査においては、現地への立入調査を実施していないため、**事業を進める際には現地調査が必要**

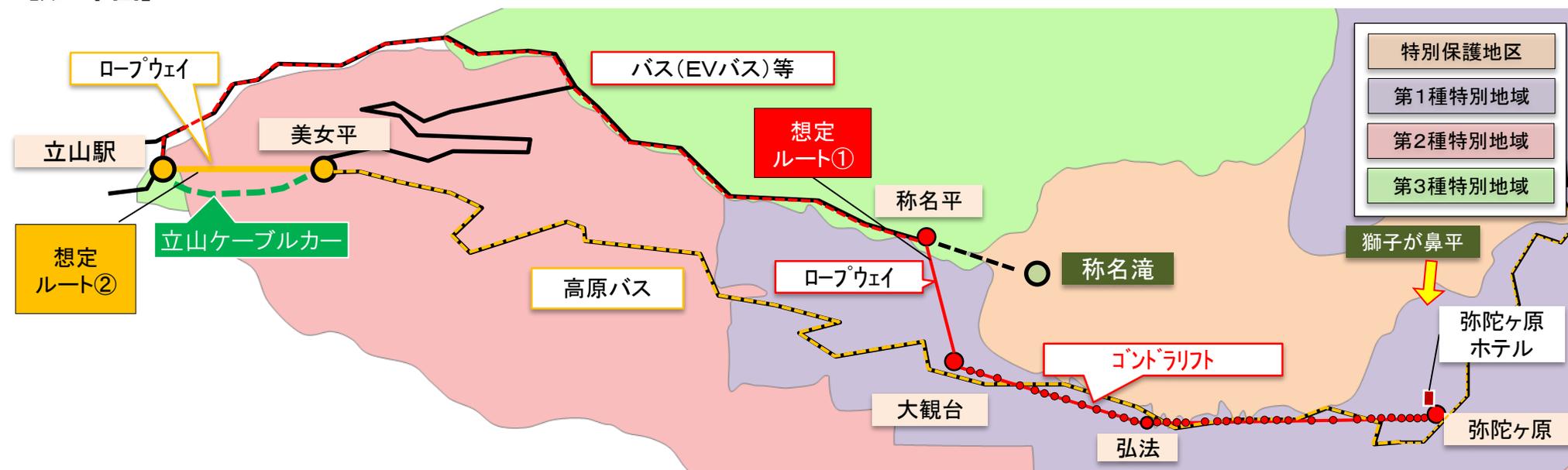
◎ 今後の取組予定・検討事項

- 自然環境の改変が少なく早期の整備が可能な想定ルート②のロープウェイ整備を優先して検討を進める。
- 想定ルート①(称名滝駅～大観台駅間)は、魅力的であり実現に向けた根強い声もある一方で、慎重論も少なくなく、自然環境保全等の調査・調整に相当時間を要すると見込まれることから、中期的に検討を行う。

○ケーブルカーに代わるロープウェイ整備に関する環境調査を実施

○希少な動植物に関する影響調査を実施(立山黒部貫光(株))

【ルート図】



ゴンドラリフトの整備概要

	大観台～弘法	弘法～弥陀ヶ原
延長	約1.4km	約2.2km
支柱数	13基	22基
高低差	169m	251m
搬器台数	31台	45台
輸送量 (片道)	約1,400人/時	約1,400人/時

景観影響



想定ルート①の大観台駅～弥陀ヶ原駅間のゴンドラリフト整備については、第1種特別地域等において、35基の支柱建設が必要となるなど、環境や景観に与える影響が大きい

21 登山道の整備

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」
世界ブランド化推進会議資料より

- 案内看板・道標等の再整備と多言語化、登山道のクオリティアップを実施。
- 魅力的で周遊性の高いルートの構築について検討。

◎ 取組状況

※第1回、第2回、第4回WGにおいて検討

1 登山道等の整備は、国の交付金等を活用し、計画的に実施

- ・登山道の整備（歩クアルペンルートの整備）…【'18実績：千寿ヶ原弘法線ほか5路線3,105m】
- ・案内看板、道標の整備（英語表記やデザインの統一）…【'18実績：歩クアルペンルートで3箇所整備】
- ・木道の新設、再整備（植生の踏み荒らしを防止）…【'18実績：五色ヶ原線ほか2路線678m】
- ・環境配慮型トイレの整備（土壌処理循環型）…【'18実績：スゴ乗越小屋】

2 周遊性の高いルート構築に向け、情報収集

- ・弥陀ヶ原～大日平の吊橋について、聞き取り調査、現地確認を実施

3 安全登山検討会を設置(2018年)し、安全登山対策の更なる充実に向けた方策を取りまとめ

① 登山前、登山中、遭難時の三局面における対策の推進

- ・登山届提出の意義の啓発など、リスクマネジメントの視点に基づき「登山前の安全対策」、「登山中の危険回避対策」、「遭難時の被害低減対策」をソフト、ハード両面から実施

② 山岳遭難の特徴を踏まえ、ターゲットを明確にした対策の推進

- ・遭難多発層(中高年登山者、未組織登山者)や単独登山者を重点対象にした対策
- ・登山者の力量と目指す山域の難易度のミスマッチを解消する対策

③ 外国人登山者の増加への対応の推進

- ・IT技術を活用した多言語による各種情報提供など、訪日外国人を含む登山者等の安全・安心対策と利便性の向上

◎ 今後の取組予定・検討事項

○ 安全登山対策

1 ICTを活用した安全登山対策

(1) オンライン登山届の導入

- ・(公社)日本山岳ガイド協会が運営する「コンパス」の活用
- ・「コンパス」付加機能の活用(6言語対応、緊急情報の配信)
- ・登山者位置情報追跡モジュール(スマート山岳道標)の設置

(2) 自分の力量にあった山選びに資する「登山道グレーディング(難易度)」の制作・公開

- ・県内山域(100山)の魅力発信
- ・ルートを細分化してピッチマップも作成
- ・リーフレット、HPで公開(英語表記版も作成)

2 立山エリアの山岳診療支援

- ・支援医師の助言を受けるために山岳診療所から映像を送信する通信機器を配備

3 安全登山の普及啓発

- ・登山用品店等とタイアップした普及啓発活動
- ・多雪な立山連峰の特性に特化した講座の開設

○ 施設整備

- 1 登山道と遊歩道エリアの境界に**表示看板(英語表記)**を設置
- 2 立山自然保護センター(1階レクチャールーム)へ**最新映像機器を導入**
- 3 樺平園地の**猿飛峡遊歩道の安全対策**

○ 軽登山が可能なハイキングコースの拡充・整備による魅力創出

1 室堂～天狗平周辺

- ・ハイキングコースの整備に向けた調査、関係機関との調整など
周遊性のあるルート設定を検討

2 弥陀ヶ原周辺

- ・周辺・現状、利用状況等を調査のうえ、**計画的な再整備を検討**



27 とやまのライチョウサポート強化、 生息状況調査

22 環境意識の啓発 24 外来植物除去活動の推進

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 本県のライチョウ保護活動を広めるため、各県のサポート隊との連携を検討。
- 本県のライチョウが安定的に生息しているか、定期的に生息数調査等を行い、保護活動の基礎情報とする。

◎ 検討・取組状況

※第1回、第2回WGにおいて検討

《これまでの会議・WG等での主な意見》

- ・ 立山は、ライチョウや植生など、環境保全の研究が進んでいる。
- ・ 立山のブランド化には、環境保全の調査、研究を進めていくスタンスが必要。
- ・ 保全と利用を一体的に考えながら、外来植物除去活動をさらに推進すべき。

1 ライチョウが安定的に生息しているか、定期的に生息数調査を実施

- ・ 2018年薬師岳での調査結果から、**安定的に推移**していることを確認。

2 県民協働ボランティアによる木道の滑止め板設置、外来植物除去

- ・ 滑止め板設置等に82人が参加。
(外来植物除去活動666名)

3 ジュニアナチュラリストの養成

- ・ 自然に関する講義や実地研修を開催。(34名養成)



薬師岳での調査状況



安定的に生息している
立山のライチョウ

立山	朝日岳	薬師岳
S47: 267羽	S48: 42羽	S49: 91羽
H3: 333羽	H6: 56羽	H5: 149羽
H23: 284羽	H23: 44羽	H22: 113羽
H28: 295羽	H29: 42羽	H30: 101羽

滑止め板設置

ジュニアナチュラリストの養成

◎ 今後の取組予定・検討事項

● 日本一のライチョウ王国の永続

- ライチョウ王国とやま発信事業による普及
- 立山ライチョウ生態調査の継続
 - ・ 第4次とやまのライチョウサポート隊活動の実施
 - ・ 上野動物園などで普及

● 自然環境保全に係る継続的な取組みの推進

- ナチュラリスト・ジュニアナチュラリスト連携事業
 - ・ ナチュラリストと連携した調査研究事業
 - ・ ナチュラリストの自然解説会活動への参加を通じて、自然への理解の深い子どもを育成



(イメージ)

28-2 火山防災

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 改正活火山法(2015.12施行)に基づき、2016年2月、県、立山町、富山市、上市町が火山災害警戒地域に指定
- 2016年3月に法定の「弥陀ヶ原火山防災協議会(会長:知事)」を設置し、防災対策を協議・検討
(火山活動の調査研究(富山大学委託)や啓発チラシ等の作成)
- 2016年12月に弥陀ヶ原が気象庁の常時観測火山に追加

◎ 検討・取組状況

※弥陀ヶ原火山防災協議会において検討

【弥陀ヶ原火山防災協議会】 火山現象ごとにその影響が及ぶ範囲を描画したもの

第4回協議会(2018.8.1)において「弥陀ヶ原火山ハザードマップ」を了承

○大きな噴石の影響

小規模噴火(5万m³):地獄谷の中心から概ね1.5kmの範囲

大規模噴火(500万m³):地獄谷の中心から概ね2.5kmの範囲

第5回協議会(2019.3.22)において「噴火警戒レベル」を了承

○レベルに応じた防災対応

噴火活動に応じた入山規制や避難等の防災対応

レベル2:想定火口域への立入規制

レベル3:地獄谷から概ね2.5km以内の範囲、火砕流や融雪型火山泥流等の

影響範囲への立入規制

【官民協働による噴石対策の推進】

国に支援要請した結果、噴石対策の国補助金が山小屋等の民間施設に拡充(2018年～:雷鳥荘が全国初)

○負担内訳 国:3/10、県:3/10、町:3/10、山小屋:1/10

○事業内容 アラミド繊維等を活用した噴石対策工事

◎ 今後の取組予定・検討事項

・県地域防災計画の改定、避難計画の検討(2018年度～)

・火山防災マップの作成(2019年度) 避難場所、避難経路、避難手段等を示したもの



各プロジェクトの進捗状況

- ① 具体的な取組に着手しているプロジェクト(17プロジェクト)
 ② 課題解決に向けた情報収集・検討を行っているプロジェクト(6プロジェクト)
 ③ 課題整理を行っているプロジェクト(4プロジェクト)
 ④ その他(1プロジェクト)

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況
01	混雑スポットにおける 食事・休憩スペース拡充	立山黒部 貫光(株)		短期	① 昨年に引き続き、室堂ターミナル屋上に展望休憩スペースを設置予定。(2019年7月初旬から。)併せて、「ティーラウンジりんどう」でのテイクアウトメニューの充実を図る。
02	アルペンルートの 営業時間拡大	立山黒部 貫光(株)	○	短期	① 2019年度は、GW中に、立山ケーブルカーの始発時間を20分繰り上げて営業を検討(7:00→6:40)。梅雨明け後～お盆の期間については、早朝営業を検討し、いずれも決定後WEB上で告知。E-SORA「立山パノラマバス」においても引き続き8月多客日に早朝運行を実施予定。
03	乗車整理券の配布	立山黒部 貫光(株)		短期	② 新運輸システム稼動に向けて、高原バス等のWEB予約システムの取扱い開始が出来るよう検討を進める。
04	高原バス等の WEB予約システム	立山黒部 貫光(株)		短期	
05	既存宿泊施設の高付加 価値化、ハイグレード宿泊 施設の整備	立山黒部 貫光(株) 富山県	○	短・ 中期	② 既存宿泊施設の高付加価値化に向け、各施設ごとの特徴や強みを整理中。2018年度に引き続き、ハイグレードな宿泊施設の整備のための支援制度(「立山黒部」ホテル・旅館ハイグレード化促進事業)を設け、新築・改築を希望する事業者を支援。
06	滞在プログラムの充実	立山黒部 貫光(株)	○	短期	① TATECOガイドのおすすめツアー紹介チラシ(TATECOチラシ)を作成し、県内外へ配布(日本語10,000部、英語3,000部)。
07	アルペンルートの早期開業	立山黒部 貫光(株)	○	中期	② 早期開業の可能性を検討するため、監視カメラや地震計による雪崩等の観測や観測員による気象データの収集を実施(2018年11月～)。気象データを継続収集し、分析を実施。
08	アルペンルートの営業期間 拡大に係る試験的实施	立山黒部 貫光(株)	○	中期	
09	黒部峡谷鉄道の営業期間 拡大	黒部峡谷 鉄道(株)	○	短・ 中期	③ 今年は暖冬であったことから、積雪状況を調査・検討し、全線開通日を5月10日(金)から4月29日(月)に繰り上げ。宇奈月駅構内において「トロッコ電車運転体験会」をプレミアム感を付加して実施(2018年12月22日～2019年3月17日の毎週土日祝)。
10	ヘリスキーの企画・実施	富山県		中期	③ ヘリスキーを実施している他地域の状況について、情報収集を実施。

各プロジェクトの進捗状況

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況	
11	黒部ルート見学会の 一般開放・旅行商品化	富山県	○	中期	①	富山県と関西電力の間で締結した一般開放・旅行商品化に関する協定に基づき、2019年度の公募見学会について、7～9月の土日祝日のうち4日間において新たに実施。 一般開放等を見据えた販売戦略の構築や魅力向上等の検討を今年度から逐次実施。
12	カルデラ体験学習会の 周知強化等	富山県	○	短期	①	現行のカルデラ体験学習会のバスコースの一部日程(9月、10月)について旅行会社のパンフレットやオンライン予約サイトへ掲載し、広く周知を実施。 2019年度は、ツアー販売を行う旅行会社を3社→4社、ツアー実施回数を9回→14回に増やし実施。
13	新しいマーケット(欧米豪 等)での認知度向上	富山県		短期	①	トリップアドバイザーと連携し、富山県特設ページの公開や、バナー広告の配信による同ページへの誘導を図るとともに、トリップアドバイザーへの登録方法や活用術等に関するセミナーを開催。 2019年度も引き続き、動画を活用したバナー広告の配信など欧米豪市場での認知度向上に取り組む。
14	多言語表記・案内の充実	立山黒部貫 光(株)		短期	①	職員が携帯するものとして多言語翻訳機(ポケトーク)を新規導入、窓口対応としてタブレット型多言語対面翻訳サービスを追加導入予定。
15	携帯電話不通エリア、 WiFi未整備エリアの解消	富山県	○	短～中・ 長期	①	2018年度は室堂及び地獄谷周辺のWi-Fiアクセスポイントを整備済(2019年度供用開始)。2019年度は、一の越～五色ヶ原間の携帯電話不感地帯解消に向けた携帯電話基地局や、大観峰～弥陀ヶ原間の商用電源供給設備を整備。今後は、美女平～弥陀ヶ原間の通信インフラ整備について検討を進める。
16	ユニバーサルサービスの 推進	富山県		短期	①	駅舎にエレベーター・簡易スロープ等を設置するなど、各事業者において取組みを実施中。 2019年度は、称名滝へのアクセス向上に向け、バリアフリー車両の運行に向けた調査検討、大観台をバリアフリーの観点にも立った展望台としての再整備に向けた調査検討を行う。
17	立山～美女平ロープウェイ	富山県	○	短・ 中期	①	立山～美女平ロープウェイの整備に関して、環境調査(県)及びルート沿線の希少な動植物に関する影響調査(立山黒部貫光(株))を実施中。
	称名滝～大観台ロープ ウェイ	富山県	○	中期	②	
	大観台～弥陀ヶ原ゴンドラ リフト	富山県	○	長期	②	
18	立山カルデラロープウェイ	富山県	○	長期	③	
19	黒部峡谷ロープウェイ	富山県	○	長期	③	

各プロジェクトの進捗状況

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況	
20	宇奈月温泉街の賑わい創出	黒部市		短期	①	県と黒部市において、2024年の一般開放・旅行商品化の開始に向け、黒部ルート of 満足度の向上や、宇奈月温泉街や黒部峡谷鉄道沿線の魅力創出・磨き上げを検討。
21	登山道の整備	富山県	○	短・中期	①	国の直轄事業や交付金を活用するなど、計画的に登山道を整備。 2018年度は、中高年登山者や外国人観光客が増加している現状を踏まえ、新たに「安全登山検討会」を開催し、安全対策や利便性の向上について検討を実施。 2019年度は、検討会の報告を踏まえ「ICTを活用した総合的な安全登山対策」を実施。
22	環境意識の啓発	富山県		短期	①	2018年度は、ジュニアナチュラリスト34名を養成。 県内5ヶ所において、ナチュラリストの解説活動を実施。 2019年度は、ナチュラリストとジュニアナチュラリストの交流・連携を実施。
23	山岳トイレの整備	富山県		短期	①	国の補助金も活用しながら、順次、環境保全に配慮したトイレを整備中。なお、2018年度は、スゴ乗越小屋の整備完了。2019年度は、別山乗越公衆トイレを整備する予定。
24	外来植物除去活動の推進	富山県		短期	①	県民協働ボランティアによる継続的な外来植物除去の活動を実施。 (2018年度は、17団体666名が参加。)2019年度も7月、8月を中心に実施。
25	利用調整地区の導入の検討	富山県	○	短・中期	④	ライチョウの保護のため、立ち入りには事前にレクチャーを行うなど、生息域の環境保全に向けた取り組みを既に実施しており、当面、具体的検討の必要性は低い。
26	環境保全経費の受益者負担の在り方の検討	富山県	○	中期	②	関係者、関係機関等からの聞き取りを実施。登山者の動向について研究。引き続き、徴収の性質、確実性、コスト等について検討を進める。
27	とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査	富山県		短期	①	2018年度は、第3次サポート隊106名が活動。薬師岳の生息状況調査を実施。安定した生息を確認。 5/26、27日には上野動物園において、本県のライチョウ生息状況や保護活動を紹介した。 2019年度も、サポート隊(第4次:100名程度)が活動。5/18、19に上野動物園で本県の活動を紹介。
28	雪崩事故対策	富山県		短・中期	①	室堂での直接指導、雪崩危険情報の提供。2018年度は、新たにGWと11月に立山駅での指導を実施。 雪崩防災研究センターと連携した雪崩情報の精度向上に関する研究の推進。
	火山対策	富山県		短・中期	①	弥陀ヶ原火山防災協議会において、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応をレベル1～5の5段階に区別した「噴火警戒レベル」を了承(2019年3月)。 2018年度から民間施設(山小屋)の噴石対策工事に対し、国庫補助金を活用し支援。 2019年度は火山防災マップの作成への支援や噴石対策工事に対し継続した支援を実施。